

# 資源価格下落とインドの貿易収支

## (1) 資源価格の下落

資源価格が下落しています。金(スポット)価格は7月22日に1トロイオンス(約31.1g) 1,100ドルを下回り、約5年半ぶりの安値まで下げています。また、一時持ち直しつつあった石油(WTI原油先物)価格は同日、約2か月半ぶりに1バレル50ドル割れとなっています。要因として以下の項目が考えられます。

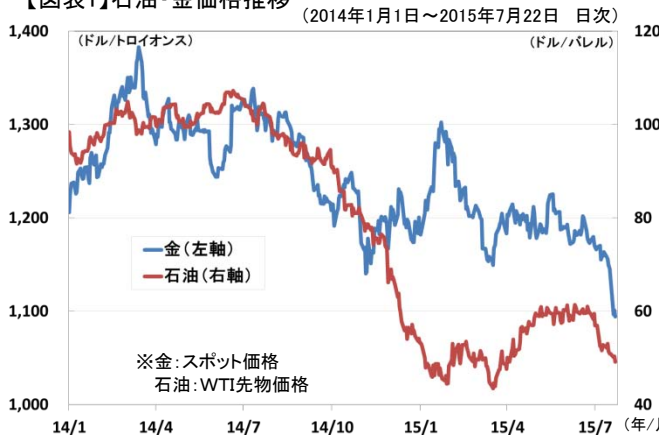
- ① 米国金利の上昇観測・・・米国の年内利上げ・金利の上昇観測等を背景にドルが主要通貨に対して上昇傾向となっています。石油や金は主にドル建てで取引されることから、ドル以外の通貨保有者にとってはドル上昇前に比べて割高となり、購入をためらう投資家が増える可能性があります。また、預金金利も上昇すると観測から、金など利息の付かない資産が敬遠されることも考えられます。
- ② イランへの経済制裁解除による石油増産観測・・・石油価格については、イランへの経済制裁解除により石油が増産され需給が悪化するとの見方があります。
- ③ 株価下落による中国の景気悪化・資源需要の減少懸念

## (2) 金及び石油価格下落のインド経済等への影響

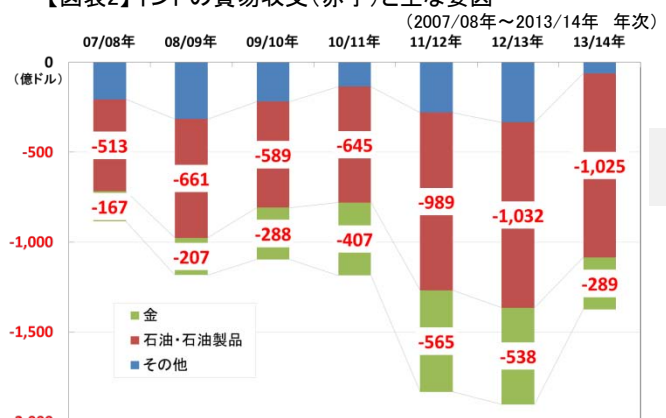
インドは石油・石油製品の純輸入(輸入額が輸出額を上回る)国です。また中国とともに金の主要な消費国でもあります。2013/14年の貿易赤字約1,375億ドル(インド準備銀行データ)の内、石油・石油製品が約1,025億ドル(全体の約75%)、金が約289億ドル(同約20%)となっています。

モディ首相は、インド経済の課題とされる双子の赤字(財政赤字と貿易等経常赤字)削減に向けた取り組みを行っていますが、貿易赤字の削減は足元一服しているように思われます。今後、石油や金価格の下落が貿易収支の改善をもたらし、インド経済に対する信頼を高めることになれば、債券市場や回復しつつある株式市場の支援材料になる可能性もあると考えます。

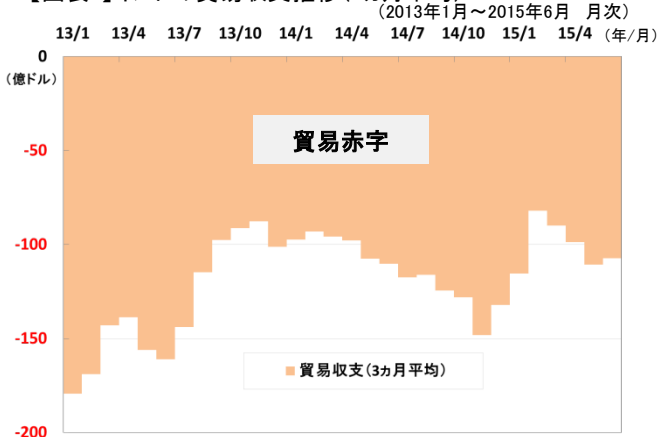
【図表1】石油・金価格推移



【図表2】インドの貿易収支(赤字)と主な要因



【図表3】インドの貿易収支推移(3ヵ月平均)



【図表4】インド株式(Sensex指数)と同国10年国債金利推移



出所: 図表1、3、4はブルームバーグデータを基に、図表2はインド準備銀行データを基にニッセイアセットマネジメントが作成

当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。 <審査確認番号H27-TB56>